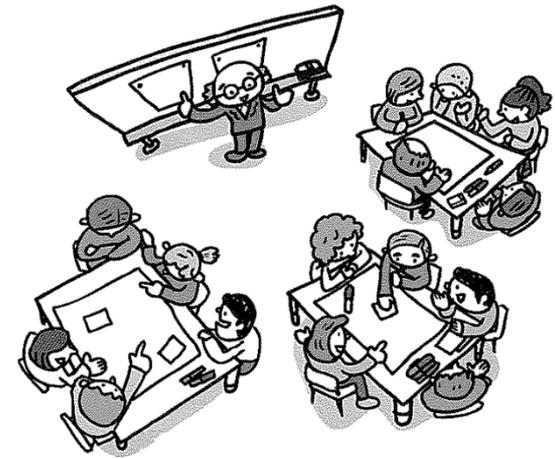


徳島大学 教育力開発コース
「授業設計ワークショップ」
事前学習講義ビデオ



アクティブ・ラーニング



徳島大学 高等教育研究センター

吉田 博

セッションの到達目標



1. アクティブ・ラーニングの基本的な考え方を説明することができる。
2. アクティブ・ラーニングを自身の授業に組み込むことができる。



アクティブ・ラーニング

◆ 文部科学省（2012）中教審答申用語集

教員による**一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修**への参加を取り入れた教授・学修法の総称。

学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内での**グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク**等も有効な**アクティブ・ラーニングの方法**である。

アクティブ・ラーニング

◆ 溝上慎一（2014）

一方向的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。

能動的な学習には、**書く・話す・発表する**などの活動への関与と、そこで生じる**認知プロセスの外化**を伴う。

徳島大学のアクティブ・ラーニング

教員による**一方向的な知識伝達とは異なり**、**課題演習**、**質疑応答**、**振り返り**、**グループワーク**、**ディスカッション**、**プレゼンテーション等**を取り入れることにより、**学生自らが考え抜くことを教員が促し**、**学生の能動的な学習を促進させる**双方向の教授・学修のこと。

2014年5月21日大学教育委員会承認

定義からわかること

◆すべての定義に共通すること

- 一方的な知識伝達型の講義とは異なる
- 学習者が能動的に学習する（学生自ら学ぶ）
- さまざまな方法がある（演習、プレゼン、ディスカッション・・・）

◆特徴（わかること）

- 教授・学習の形態のことである
 - 内容や質を問うものではない（手段にすぎない）
- 全く新しいものではない
 - 演習、実験、実習、実技など、以前から行われてきた手法

なぜ、アクティブ・ラーニングが推進されるか

◆社会の変化・多様化

- 少子高齢化、環境問題、グローバルな課題などが山積している
- 将来の予測が困難→必要な知識も変化が激しい
- AIなどの技術の進歩が速い→単純な仕事は取って代わられる

◆専門知識以外の能力も求められるようになった

- 学士力、人生100年時代の社会人基礎力など、(〇〇力)
- **学力の3要素**：「知識・技能」、「知識の活用（思考力・判断力・表現力）」、「主体的態度（主体性・多様性・協働性）」

◆アウトカムベースの質保証が求められるようになった

- 「教員が何を教えたか」よりも、「**学生が何を学習したのか**」を重視。
- 学位プログラムなどの**学習成果の可視化**が求められる。

アクティブ・ラーニングに期待される効果

◆ 学習意欲の喚起

- 学生の学習活動に変化が加わることで、他の受講生との関わりを持つことで、**学習意欲を高める**ための刺激が期待できる。

◆ 知識の習得・理解の促進

- **深く理解**することができる（書く、話すなどを通して）
- 自身の**理解度の確認**（課題を解く、振り返りなどを通して）

◆ 幅広い能力の育成

- 既存の**知識を活用する能力**
- **汎用的な能力**（コミュニケーション力、プレゼン力など）
- **「学び方」を学ぶ**ことができる

アクティブ・ラーニングに期待される効果

◆ 学習意欲

ただし、
「アクティブ・ラーニング」は、成果を保証するものではない。

授業の目的・目標・内容に合った教授法を選択することが大切！

アクティブ・ラーニングの失敗

◆形式主義

- 学問の文脈に合っていない方法を実践する
- 学生のスキル（知識・技能）に合っていない
- 「活動」にのみ焦点が当てられ「学び」がない
- 「活動」のための事前、事後の計画がなされていない
- 「評価」が適切に行われていない

◆目的の転移

- アクティブ・ラーニングを導入することを目的にしない

ただし、失敗は決して悪いものではない！！

– 経験しなければ知りえなかったこともたくさんある

アクティブ・ラーニングの課題

◆ 学習内容の厳選

- 授業で取り扱う内容の厳選
- 授業外学習の有効活用

◆ 積極的に受け入れない学生

- 楽に単位がほしい、苦手、慣れていない、特別な配慮

◆ 授業の運営スキル

- 授業設計、評価、ファシリテーター、事前準備

◆ 組織的な課題

- カリキュラム、学習環境、TA予算の確保、FDの充実

講義とアクティブ・ラーニング

組み合わせて授業を設計する

講義

知識の伝達には
効果的な手法！

**アクティブ・
ラーニング**

知識の習得・理解
学習意欲の喚起
幅広い能力の育成

講義とアクティブ・ラーニング

**授業の目的・目標・内容に合わせて
授業構成を考えることが大切！**

講義

**アクティブ・
ラーニング**

アクティブ・ラーニングを行う上で**大切なこと**

◆ **試行錯誤する** (試しにやってみる)

- どんな学生、どんな授業でも成果が上がるという万能な方法は存在しない。**トライ&エラー**を繰り返す。

◆ **多くの事例を知る** (FDや他の教員との情報共有)

- さまざまな**授業方法の特徴やメリット・デメリット等の情報**を知っておくこと。

◆ **教育の知識やスキルを身につける** (FDなどで)

- **インストラクショナルデザイン**の知識
- **学習**に関する**理論、新しい教育方法やツール**

オンライン授業で アクティブ・ラーニングを 成功させる Tips

このリーフレットでは、オンライン授業においてアクティブ・ラーニングを成功させるための Tips をご紹介します。ここに取り上げている機能は、同期型授業ツール（例えば、Zoom、Teams など）の基本機能を使用したものです。

Tips を活用して、オンライン授業でアクティブ・ラーニングを実践してみませんか？

作成までの背景

令和 2 年春に、新型コロナウイルス感染防止対策のために、急速オンライン授業が始まりました。これまで、大学教育において取り組んできたアクティブ・ラーニングによる授業実践の取組を継続させていくために、共同研究者が集まり、ダイナミック・ヒューマン・キャピタル社の中村文子氏による「オンライン研修のための講師養成講座」を受講。その後、学んだ内容をもとに自己の授業等において Tips を実践し、検証を行いました。そして、オンライン授業において実践できるアクティブ・ラーニングを成功させる Tips を開発しました。

本リーフレットは、平成 30 年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアチブ（牽引型）」の助成を受けて作成されたものです。

研究代表者

杉田郁代
(高知大学)

共同研究者

中井俊樹・竹中喜一 (愛媛大学)
吉田博・堀川奈々美 (徳島大学)
塩崎俊彦・高畑貴志 (高知大学)

参考文献

中井俊樹 編著「アクティブラーニング（シリーズ大学の教授法）」玉川大学出版部、2015

刊行

2021年2月22日

デザイン

SASAMI-GEO-SCIENCECinc.



本リーフレットに関わる 問い合わせ先

高知大学
大学教育創造センター 杉田郁代
〒780-8520 高知市曙町 2-5-1
Mail isugita@kochi-u.ac.jp

オンライン授業疲れを防ぐために

オンライン授業を受けてばかりいると、長時間のディスプレイ注視や着座姿勢によって、授業に対する集中力だけでなく、心身の健康にも影響を及ぼす可能性があります。授業中に以下のような要素を取り入れることにより、学生における「オンライン授業疲れ」の緩和を図りましょう。

- 1 オンライン以外の教材を使う時間の確保
- 2 休憩時間の確保
- 3 身体を動かすアクティビティ

- 窓の外を眺める、窓から見えたものを共有する
- 立ち上がる、歩く
- 腕や肩を動かすストレッチ
- 休憩中に音楽を流す



学生が安心して授業を受けるために

オンライン授業では、学生が受け取る情報の多くは、画面越しに見える教員からの情報です。下記の要素を取り入れることにより、学生が安心して授業を受けることができるように工夫しましょう。

1 教員が授業を楽しむ

少しテンション高めを意図して、教員自身が授業を楽しんでいる様子を見せるよう心がけましょう。

2 教員はビデオをオンの状態にする

対面でのコミュニケーションが制限される状況下では、授業で教員の顔が見えることは学生の孤独感の緩和につながります。

3 オンライン授業の安心と信頼は、フィードバックから

教員が学生に対してフィードバックを行うことで、学生が受講生として参加しているという安心感を持ち、教員への信頼につながります。

4 別端末を用意して、学生への見え方を確認する

どのような画面が共有されているか、音声通っているか、学生にどのように伝わっているかなどを確認するため、予備の端末を用意し確認を行います。

学生が自発的に動けるように

1 ブレイクアウトルームの時は？

グループワークの役割と担当決めの方法を事前に伝える。

2 授業前の画面共有で授業の流れや グラドルールを提示しておく



(例) 指示は正確・丁寧に

グループワークの司会は、
誕生日が一番今日に近い人が行う

意見の共有は、
氏名のアイウエオ順に行う

授業資料に掲載しておく
PDF 等のファイルを
チャットで共有し、ダウン
ロードさせる、など

オンライン授業における注意事項

「流しておくだけ聴講」を予防するために

オンライン授業では、教員が学生の受講の様子を確認することが難しいため、授業ツールにログインしても音声を聞き流すだけで別のことを行うような「流しておくだけ聴講」が見られます。長時間にわたって一方的に聞くだけの受講では、学生のモチベーションを低下させるどころか、授業に参加しない状況を放置することにつながります。こうした状況を防ぐために、下記のような要素を授業内容に取り入れてみてください。

1 授業途中に予告をせずに...

- 出席確認
- クイズの出題 (授業内容に関する簡単な質問)
- 投票を実施
- ブレイクアウトルームを活用したグループワーク

2 授業終了時 (5 分程度で) 授業の気づき (学び、ポイント) を LMS などで記述・投稿させる

万が一のトラブルの時のために

オンライン授業にはトラブルはつきものです。例えば、教員側のネットワークの遮断や、音声トラブルなどが挙げられ、学生側も同様のトラブルが見られます。予期せぬトラブルを事前に回避できれば良いですが、そもそもいかなる時があります。トラブルを予め想定して、授業に臨みましょう。

- ネットワークに関するトラブル -

1 ネットワーク不調による授業の中断

(対策) 授業中断における対応策を初回授業時で確認しましょう。例えば、中断された授業の代替措置の提示 (補習、レポート、課題など) や、トラブルが生じた場合の教員に対する連絡手段の提示、障害発生時、教員からのメール連絡を確認するよう指示しておくなどが考えられます。

2 映像がカクカクする、時々止まる

(対策) ネットワークの通信速度や不安定さが影響している可能性があるため、無線接続を有線接続に替えてみましょう。また、ツール利用者が集中することでサーバーがパンクすることもあるため、別の会議ツールに切り替える方法も検討しましょう。

- 音声に関するトラブル -

1 音が飛ぶ、音声が不安定になる

(対策) データ通信量が多く、処理が遅くなる可能性があります。通信量を下げるために参加者のビデオを off にしたり、パソコンの処理能力を上げるために立ち上げているブラウザを閉じたりしてみましょう。

機能があります。いったん全員をミュートに
"ホンを着"用、片方のアカウントのミュートを

アクセスしてください ↓

オンライン授業実践ガイド (大阪大学 全学教育推進機構教育学習支援部HP) 17



ENHANCED BY Google

CONSULTING SERVICE

お問い合わせ

私たちに
ついて

イベント
情報

FD
プログラム

私たちの
取り組み

教育支援
コンテンツ

アクセス

オンライン教育ガイド

— Online Teaching Guides —

トップ

オンライン授業の準備

オンライン授業の実施

オンラインでの学習評価

オンライン教育に関するリソース

Home・私たちの取り組み・オンライン授業実践ガイド・オンライン教育ガイド

オンライン教育ガイドとは？

オンライン教育を実施する教員向けに、授業設計や評価方法のポイント、大阪大学で行われている実践事例、関連する用語などについて紹介しています。最新情報を随時更新しています。

- * 正確な情報を迅速に提供すべく努力していますが、アップデートできていないところやこちらで把握できていないところがあるかもしれません。大学の方針、およびサービスの提供内容も日々変わっておりますので、最新の情報については、他の情報も併せてご参照ください。
- * 大阪大学が提供する遠隔講義などの支援やサービスは、[サイバーメディアセンターのウェブサイト](#)をご覧ください。

オンライン授業を準備する

はじめに...オンライン授業実践ガイド



オンライン授業にはどのようなものがあるでしょうか？非同時（オンデマンド）型と同時（リアルタイム）型に分けて、それぞれ10のケースを紹介しています。

オンライン授業で活用できるシステム



オンライン授業を実施するにあたって、大阪大学で活用できるシステムを紹介しています。個々の具体的な使用方法などのリンク先も掲載しています。

1コマのオンライン授業のデザイン



実際にどのような授業ができるか、1コマ（90分）の授業デザインを非同時（オンデマンド）型と同時（リアルタイム）型に分けて、6つ紹介しています。

授業をオンライン化する10のポイント



対面授業をオンライン化するときのポイントとは？オンライン授業へ素早く移行するために検討すべきポイントを10に整理しています。

対面とオンラインを組み合わせる

対面とオンラインの組み合わせであるブ

ブレンDED教育のシラバスを作成するための10のポイント

アクセスしてください↓

<https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/onlinelecture/top.html>
(2021.7.1)

参考文献

- ◆ 中井俊樹編（2015）『アクティブラーニング』玉川大学出版部
- ◆ 中島英博編（2016）『授業設計』玉川大学出版部
- ◆ 溝上慎一（2014）『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
- ◆ 亀倉正彦（2016）『失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング』東信堂
- ◆ 中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）」
- ◆ 中央教育審議会（2016）「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」
- ◆ 中央教育審議会（2018）「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」
- ◆ 経済産業省（2019）「人生100年時代の社会人基礎力について」
https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou_wg/pdf/007_06_00.pdf（2021.7.1.）
- ◆ オンライン授業でアクティブラーニングを成功させるtips
https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/2/3/5/0/7/9/_/_____Tips.pdf
（2021.7.1）
- ◆ 大阪大学 全学教育推進機構教育学習支援部
<https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/onlinelecture/top.html>
（2021.7.1.）